

# 平成27年度 第1回 エルシーブイ放送番組審議会 議事録

■開催日時 平成27年6月8日(月) 午後1時30分～午後3時00分

■場 所 エルシーブイ株式会社 ANNEX 1階会議室

■出席者 委員総数 5名

## 出席委員 (5名)

市川 純章 委員

河西 滋子 委員

井上 淳哉 委員

小泉 光世 委員

菊池 大介 委員

## 放送事業者側 (10名)

河 口 讓 代表取締役社長

吉 澤 君 弘 専務取締役

伊 藤 敏 昭 取締役

佐 久 章 展 放送制作部長

田 中 淳 司 放送制作部 主事

平 岩 陽 一 放送制作部 主事

八 幡 聡 放送制作部 制作課長

柳 原 正 放送制作部 編成運行課長

吉 田 和 晃 放送制作部 報道課長

原 田 久 美 子 事務局

## ■議 題

### ・番組審議

審議対象番組 「 統一地方選挙開票速報及び一連の報道 」

## ■議事の概要

- ・新年度最初の審議会にあたり、委員長、副委員長を互選し、委員長に市川純章委員、副委員長に河西滋子委員を選出した。
- ・報道課長より、番組の企画意図、放送内容、制作体制などについて資料と映像により説明が行われた。それを受け、市川委員長の進行により番組に関する審議が行われた。
- ・担当取締役より、「放送基準」をケーブルテレビ連盟が放送法に準拠するよう「番組基準」と表記名を変更したのに準じ、エルシーブイにおいても「番組基準」とする事が報告された。

## ■審議対象番組に対する主な意見

- ・選挙報道にかかせない、出口調査の意図やサンプル数、他局で当確を打たれた時の対応などについて質問が出された。それに対し、出口調査は当確を出すための一つの判断材料である事、サンプル数は目標としていた数を確保出来た事、他局で当確を打たれた時の対応として、そうした場合の進行についても用意している事が報告された。

主な意見は下記のとおり。

### ◇評価意見

- ・VTRはよくまとまっていたと思う。
- ・解説者のコメントは全体としては的確であった。
- ・国政選挙のように時々刻々の変化に一喜一憂するようなものではないが、地元の人しか関心を持たない情報を、国政選挙並みの番組づくりをしたことで、ケーブルテレビ色のない番組になっていて遜色なく見られた。

### ◇指摘・要望

- ・あちこちチャンネルを変えながら、一番早い情報を求めて見ていた。LCVが一番早いと思っていたが、他局が当確をだしてしまったのは残念に思った。
- ・当確を出せるなら出した方がいいのではないかと。地元なので視聴者はLCVに期待していると思う。
- ・LCVは他局とは違うスタンスでやっているということを書いてしまえばどうか。
- ・VTR「茅野市は今」は、今流さなくてもいいのではないかと思います、チャンネルを変えてしまった。選挙報道だけを放送した方がいい。
- ・「開票速報」と謳っているからには、速報に力を入れてほしい。
- ・投票率についてのアナウンサーからの問いかけと、解説者の答がかみ合っていないように感じた。
- ・一般的に当確が出たら見るのをやめる人が多いと思うので、オープニングで湧いている場面の説明をすべきだったのではないかと。

- 選挙離れの中で関心を持ってもらえるかという点で、一目ではどういう状況なのかわかりづらかった。画面上にどういう場面か説明テロップがほしかった。
- 画面の下に、122chでも放送していることを入れるなどした方がよい。
- VTR、コメントと出口調査の内容についてのクロス具合が足りない。数字だけの情報でなく、立体的に見せてほしい。
- 資金的にも差がある民放と同じことをやるのはもったいない。地元の局では何ができるのかを考えていくべきでは。速報争いだけでは視聴者は減っていく。
- リポーターの声が聞きづらかった。
- 若い世代はNETで途中経過や結果を見る。速報競争はあまり価値を持たなくなってくる印象がある。ならば、地元の局ならではの情報の価値で勝負していった方がいいのではないか。